



ICAS 活動予定



◇ICAS 主催教育国際シンポジウム◇

(詳細は 2 面)

日時：12月18日(火) 13:30～

場所：茨城県立図書館視聴覚ホール

テーマ：人と人、人と知識をつなげる教育

～持続可能な社会のための指導者育成～

◇ICAS 第 1 部門ワークショップ◇

日時：12月21日(金) 9:20～

場所：茨城大学インフォメーションセンター (三の丸)

講師：國生 剛治教授(中央大学理工学部)

北村 良介教授(鹿児島大学工学部)

米山 望准教授(京都大学防災研究所)

◇杉浦淳吉准教授大学院集中講義◇

日時：12月21日(金)～23日(日)

場所：ICAS 本部

テーマ：地球環境問題をシミュレーションしたゲーミング

講師：杉浦 淳吉准教授(愛知教育大学)



ICAS 活動報告



◆第 5 回 ICAS サステナフォーラム◆

10月29日(月)水戸キャンパスインタビュースタジオにてサステナフォーラムを開催しました。講師には今年のノーベル賞受賞機関IPCCのメンバーであるジョン・ハイ氏、パトリック・ナン氏をはじめ、4名の著名な外国人教授を迎え約3時間に渡り大いに盛り上がりました。



フォーラムの様子

◆第 6 回 ICAS サステナフォーラム◆

11月27日(火)阿見キャンパスこぶし会館にてサステナフォーラムを開催しました。ジョン・ハイ氏、イスワンディ・アナス氏による熱い議論が繰り広げられました。

ICAS/IR3S Calendar

4月	新年度スタート		
5月	5/11(fri) 第2回 ICAS サステナフォーラム 5/14(mon) ICAS ゼミスタート	10月	10/2(tue)茨城大学・社会連携事業会講演会 ISCIU-3 10/6(sat).7(sun) 国際学生会議 in Mito IR3S 10/18(tue) 北九州シンポ(専門家会合) ~20(thu)「アジアの循環型社会の形成を目指して」 10/29(mon)第5回 ICAS サステナフォーラム
	IR3S 5/30(wed) 中国浙江大学シンポ ~6/2(sat) 「循環経済と持続可能な社会」	11月	11/18(sun) 阿見町3大学交流事業 11/27(tue) 第6回 ICAS サステナフォーラム
6月	6/9(sat)「サステナビリティ学入門」第1日 6/23(sat)「サステナビリティ学入門」第2日	12月	12/18(tue) 教育国際シンポジウム in Mito 12/21(fri) ICAS 第1部門ワークショップ 12/21(fri)~23(sun)杉浦淳吉准教授集中講義
7月	IR3S 初旬 インド Office 開設(WS 開催) 7/6(fri)小宮山東大総長講演会 7/7(sat)「サステナビリティ学入門」第3日 7/13(fri)第3回 ICAS サステナフォーラム IR3S 7/17(tue).18(wed) IR3S 国内ワークショップ	1月	
	8月	8/7(tue).8(wed)第4回 ICAS サステナフォーラム	2月
9月	9/3(mon)~5(wed) 農学部国際シンポジウム IR3S 9/18(tue) エネルギー持続性フォーラム ~19(wed) with IARU 9/20(thu) ベトナム・日本国際シンポジウム ~22(sat) in Vietnam	3月	地域サステナシンポジウム in Mito

*網掛けは継続される企画です
*予定は変更になる場合があります

ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで
icas@mx.ibaraki.ac.jp



ICAS コラム

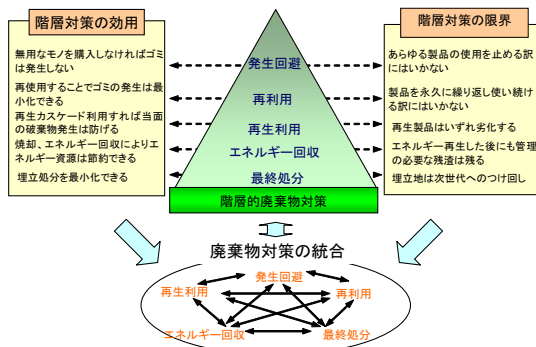
今回も特任研究員の田村さんが「3R」についてわかりやすく解説します。皆さんのサステナブル知識、増えましたか??

3R とは

循環型社会の構築に向けて、最近では TV や新聞でも 3R という言葉が宣伝されるようになりました。3R は、廃棄物の減少(Reduce)、資源の再利用(Reuse)、資源のリサイクル(Recycle)を行おうとする考え方です。有限な資源を如何に無駄なく使うか。廃棄物を単なるゴミではなく「排出資源」(ICAS ニュース Vol2 を参照)と見なすことにつながります。

この 3R は、優先順位、階層性を認識することが重要です。例えば、空き缶のリサイクル量を増やすにはどうしたらよいのでしょうか。数字上は、回収率やリサイクル率を上げる方法以外にも、空き缶そのものの投入量を増やすことでも達成可能です。しかし、これでは本末転倒です。循環型社会というリサイクルに気が取られがちですが、本来 3R をうまく使い分けることが大切です。まず、出来る限り廃棄物の量を減らし、再利用し、リサイクルを目指します。しかし、再利用やリサイクルがどうしてもできないものは廃棄した方が全体で見た時のエネルギーや環境負荷が小さくなるかもしれません。すなわち、循環型社会とは、循環が自己目的ではなく、現状より資源利用の無駄や環境負荷を低減することが大きな目標となります。ちなみに、2000 年に制定された循環型社会形成推進基本法の「循環型社会」の英語訳が、当初の Recycling-based Society から 2003 年秋以降に Sound Material-Cycle Society に改められたのも、この優先順位を反映したものだと思われます。

今年 4 月から施行された改正容器包装リサイクル法でも、Reduce の必要性をより強く打ち出すようになりました。その象徴としてレジ袋の削減が取り上げられることが多いのですが、これはあくまでも対策の一つです。本来はシステム全体を考えて行動することが求められます。3R へさらに Refuse(買わない・もらわない)や Repair(修理する)などを加えるべきという考え方もあるぐらいです。いずれにせよ、発生回避、再利用、リサイクル、適正処理、最終処分といった個々の役割と限界を把握し、総合的な対策が求められます。



廃棄物対策の階層性 (出典)酒井他(2000)に基づき作成

◇ICAS 主催教育国際シンポジウム◇

人と人、人と知識をつなげる教育

～持続可能な社会のための指導者育成～

http://rika2.edu.ibaraki.ac.jp/ICAS_Sympo2007/



講演者紹介

Victor Elderton

北バンクーバー野外学校・校長
自然理解パシフィック財団代表
ブリティッシュ・コロンビア州環境教育者協会・会長

Pauline Chinn

ハワイ大学マノア校教育学部教育課程講座・教授

Kaye Price

キャンベラ大学コミュニケーション・教育部門、教育・地域研究分野・講師

小川 正賢

神戸大学大学院・教授、人間発達環境学研究所

ICAS メンバー紹介

横木 裕宗 (よこき ひろむね)

茨城大学広域水圏環境科学教育センター准教授

かに座・A型



広域水圏環境科学教育研究センターの横木です。広域水圏環境科学教育センターの本部は潮来にあり、理学系の先生方がおられますが、私は日立キャンパスにあり、授業・卒論・修論を工学部都市システム工学科で行い、さらにはこれを書いている時点で工学部長室のメンバーにもなっているので、工学部の人と見られているようです。はやく ICAS の人と見られるように頑張らねばと思っています。出身は神戸ですが、東京で学部・院・助手時代を過ごしました。博士論文は、海岸工学の中の特に波浪の統計的解析の分野で書きましたが、最近では、「温暖化」「沿岸影響」「適応策」などのキーワードで名前が出るよう努力しております。東京にいた頃、つまり若かった頃には、諸先輩方に「昭和 40 年生まれとは話したくない」などと羨ましがられていましたが、先週授業をしたら、平成生まれがニコニコして座っていて、複雑な気持ちになりました。ともあれ、微力ながら ICAS の活動に全力貢献していきたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。

Editor's Note

今年最後の ICAS News はクリスマス仕様に見えました。Merry Christmas and a Happy New Year!!
By R. H.